



FRIENDS

The Friendship Force of Saitama 会報 第79号(2010)

アメリカ及びオランダ渡航特集



オレゴン Mt.Hood
Timber lodge 前



オレゴン Farewell & Halloween Party



アイオワ Dubuque 市内 Trolley Bus 観光



アイオワ Dubuque 市長表敬訪問

アメリカ渡航

ED 池田 完之

6月4日にFFIからドイツ渡航キャンセルの連絡とともに5代替案が提示された。その中から米国の Oregon's Mid Willamette Valley club を希望としたのが 今回の渡航の始まりで、2週目も Iowa の Dubuque club に決まり、10月1日に出発した。

初めての渡航 ED だったが 通訳の稲垣さん初め参加者の皆さんに支えられ 又、両クラブの ED 並びに会長とホストに、そして天候にまで 恵まれ 楽しい交換となった。

1週目は西海岸のオレゴンで本拠は州都 Salem と周辺。

初日の観光ツアーで見所を満喫、2日目の会長宅の Welcome Party で一挙に親しくなりその後の交換がより楽しいものになった。出立前の7日は州議会を表敬訪問、その後の Halloween Costume & Farewell Party は 日本及び地元の仮装と一緒に楽しんだ。

2週目は中西部のアイオワ州ダビューク市でミシシッピ川に沿った Corn Belt 地帯。到着日の地方紙に我々17人の埼玉訪問団の記事が載り、読んだ Dubuque 市民がいろんな所で我々を歓迎してくれた。また、Dubuque 市議会に市長を表敬訪問、同市長及びさいたま市長 相互の親書を交換した。

ミシシッピ河畔での Welcome Party、Cocktail Cruise 及び川を遠望するカシノのレストランでの Farewell Party 等を通じ 地元の人が愛するミシシッピ川とその近辺の豊かさを堪能。

今回はアメリカ西海岸と中西部の2クラブとの交換で、彼らの優れたホスピタリティに感銘を受けた。

また 多くの人と友情を育み FFのミッションを果たす事が出来たと思う。

Corvallis and Dubuque 増倉 宏子



うーん、やっぱり大きい！ 雲の間に間に見える針葉樹、紅葉、モザイクの畑、点在する家。
 オレゴン Corvallis のホストは穏やかな Joan と Don. 彼女が、生花を見たいとの事で剣山を持参、枝の取り扱いにメモを取りながらの質問、4 種活けた。驚きは花器に湯を入れようとした。必ず水でとお願いする。Don とのハンバーグ談義 アメリカ流と私流どっちが美味かな。
 Dubuque のホストは厳しそうな Marie と Jim, 初め

でのホストで緊張ぎみ。Marie が料理、Jim が家事全般、各々分担している。うらやましい。
 ミス大学になった長女が結婚し、スーダンにいる。なかなか会えないので寂しがっている。夏休みには娘と孫 3 人が来るとの事。
 両家とも派手ではないけれど落ち着いた心配りで楽しく過ごせた。車社会で買い物心配。
 コロンビア川とミシシッピ川に太平洋から戻ってみたい 魚のように。

OREGON/IOWAでのホームステイに参加して 西村 介延



今回、初めて Friendship Force のホームステイに参加しました。これまで、米国、カナダ、オーストラリア、台湾など、10 回程度での受け入れをおこなっていますが、アンバサダーとしての経験は、まったく違ったものでした。
 また、米国へも仕事で、今回訪問の IOWA のすぐ隣の州である MINNESOTA 州へ何回か行っていますが、その経験とも違い、たいへん新鮮な体験でした。まずは、それぞれの場所でのステイの期間が、7 日間と比較的長い滞在期間であり、ホストファミリーと色々な話題で楽しみ、

アメリカでの家庭生活を満喫できたことです。
 われわれの今回ステイ先は、オレゴンでは Ted & Rita、アイオワでは Robert & Peggy でしたが、彼らの若いころの苦労話、新婚旅行の思い出、建築中の新しい家、仕事の話... など話つきないものでした。
 これ以外にも、今回ステイでの印象に残ったと同時に感謝したいのは、ホスト・ファミリーの心のこもった Hospitality です。いかにゲストに楽しんでもらうか、の姿勢に感謝・感謝です。
 これからも、機会があれば、是非アンバサダーとして、今後も参加していきたいと思ひます。

新しい出会い (オレゴン・アイオワの交流で) 浜 敬子



オレゴン Welcome Party



アイオワ ダンスの後の盛り上がり



もちろん美しい山や川、広大な景色に感嘆したけれども、一番印象に残っているのはホストやクラブの人たちとの会話や一緒に行動した体験です。交流プランの他に彼らの日常生活を共に経験できたことは何よりの宝になりました。

オレゴンでは日曜の教会に出かけ、ホストが週3、4日は通うというジムに行き、ジグソーパズルを楽しみました。私の要望で、近くの高校でマーチングバンドの地区大会が開催されていて、見学に連れて行ってもらいました。

奥さんのボンダさんは教会のボランティアを精力的にこなし、足腰の悪くなったご主人を思いやる優しい方。日本びいきでインテリアも日本人アーティストのものを飾り、日本語の勉強も少しずつしている様子でした。週末に時々訪れるという娘キャシーと婚約者のアレックスが夕食の準備をして到着を待っていてくれました。

キャシーは小学校の先生、アレックスは中国系カンボジア人でシアトルのボーイング社で働いています。ネットを通じて知り合ったカップルでした。

アイオワではダビーさんとやはり日曜の教会に出かけ、彼女が体調管理のため十分休息をとらなければいけない時間に私たち(中林さんと一緒に)はタウンウォッチングに出かけました。彼女は亡くなった末の息子の腎臓を移植し糖尿病、皮膚がんと戦っています。子供6人を育て、15人の孫と2人のひ孫を持つ肝っ玉母さん。

フレンドシップ・フォースで行った国、大分・韓国・ロシア・オーストラリアとそのときの友達の話題やケニヤ・アイルランドなどの旅行の話を楽しそうに話してくれました。

高齢の女性といえどもダビュークとベルビューの間を韓国産 KIA の車でぶんぶん飛ばす一方、メンバーの年齢を知りたがったというのも可笑しかったです。

ハロウィンを迎えるという季節に訪問したことは特別な思い出になりました。紅葉も楽しめましたし、それに山姥などという仮装は日本ではできませんもの。

一つ悔やむことは、"I left my heart in DUBUQUE and BELLEVUE"と歌ったのに、うまく行かなかったこと。

カラオケになれていても生演奏はそうはいかない、教訓でした。

また、この会をもっとよく知り少しでも英語で説明できること、今からでも自分でできる日本の伝統的なものを紹介できる何かを身につけることが、これからの私の課題になりました。今からでも遅くない、と気合いをいれつつ。

EDの池田さん、中林さん、クラブの皆様大変お世話になりました。中林さんには私のいい加減なヒアリングでご迷惑をおかけしてごめんなさい。おかげで笑い話がまた増えました。

家に着いたら、オレゴンのホストから、Happy Halloween のカードが届いていました。

オレゴンでは初めての一人のステイでとても緊張しましたが、おかげで暖かい交流ができました。



オレゴン Silver fall



オレゴンコースト キャンプで乾杯



オレゴン Coast Guard を訪問



オレゴン Halloween Party 用カボチャの収穫

「世界中みんな友達」を肌で感じた初めてのFF 渡航 斉藤 文子



オレゴンコースト
太平洋をバックに



アイオワ
ミシシッピ川を背に

わずかな緊張もホストにお会いしたとたん吹き飛んでしまい、天候にも恵まれ、素晴らしいステイになりました。

オレゴンではハローウィンパーティー、女性はクラフト教室、太平洋に面した素敵なコンドミニアムに1泊と毎日バラエティーにとんだ行事に、瞬く間の第1週でした。

2週目のアイオワでは、「偉大なるミシシッピ川」に関連した自然と文化と歴史をホストとともに訪ねました。

ワイナリーでは引っこみ思案とも思われがちな日本人の私達が「即興勝手ダンス」を、それまでの食べ過ぎ分以上に楽しみました。

3週目は世界大会とノースカロライナでのステイでは紅葉の山景色や信じられないほどの広大な領地のヨーロッパ風の城の見学など、あっという間の3週間でした。

とにかく世界大会をはじめ、毎日、会う人々のフレンドリーさとホスピタリティを実感したり、感激したりした渡航でした。ありがとうございました。



アイオワ Farmer's Market



アイオワ Cocktail Cruise

オランダ渡航・3ヶ国交流

沼 純子



Welcome Party
Netherland East, Oklahoma, Saitama 3クラブと



Culture Day (生花デモ)

オクラホマクラブのオランダ渡航に埼玉クラブから9名が参加。オランダとアメリカと日本の3カ国交流という大変貴重な経験ができました。

Netherland East Club ホームステイ中には、ゴッホ美術館、国立公園、チーズ工場、木靴工場見学などのほか、お花の国オランダらしい豪華な Flower Showにも連れてもらいました。

とりわけ印象深かったのは Culture Day の三か国文化交流です。オクラホマから参加したインディアン(アーティスト)のインディアンの歴史や現状について

の話、オランダのクラブの会員のすばらしい絵画の数々、そして日本からは新井さんが三か国の国旗の三色を用い”Friendship”を表現。海外での生け花デモという大役を見事に果たしてくれました。

日本とは400年の交流の歴史があるオランダで、心のもったもてなしを受け感動の日々でした。

小林さんと郡山さんが企画したホームステイ後の観光は、アムステルダム(アンネ・フランクの家やゴッホなどの美術館めぐり)、ベルギーのアントワープとブルーージュなど、もっともっと長く滞在したいと思いつつ帰途につきました。



フラワーパレード 観覧



フラワーパレード ダリアの花の山車

オランダ渡航

長島三枝子



ヨーロッパの歴史や文化に興味があり、またホームステイというプログラムにも魅力があってオランダ渡航に申し込んだところ、参加することができとてもラッキーでした。

ホームステイを終えて、私は、オランダやオランダ人について、他者や他文化を理解し、新しいものを受け入れる寛容性があり、とても自由な国であると理解しました。

Explore Understand Serve をモットーの F F 渡航に初参加の私でも、同じ目的を持った仲間のひとりとして充実したすばらしい旅となりました。

同行の皆様有難うございました。

母娘 オランダ 2週間渡航を終えて

宮城 実穂子



私の母は、以前からホームステイを受け入れており 小学生の頃から英語に触れる環境に育ちました。

私自身今後海外留学という目標があり、ホームステイを体験したいという思いから 今回の渡航に参加させて頂くことになりました。

1週目は、待ちに待っていたホームステイ。

迎えに来てくれたのは60代のとても仲の良いご夫婦でした。

毎朝起きるとファザーが朝食の準備をしており、準備が終わる頃にガウンを着たマザーが起きてくるという いつでもレディーファーストのファザーでした。

日本で見ている両親と真逆の光景に ビックリしたのと同時にとても微笑ましかった。

ステイ先のお宅は都会とは少し離れた場所にあり 家の周りにはブルーベリーやストロベリーのファームがずらりと並んでおり その場で食べさせてくれたり、朝一番で散歩に行き市場で新鮮野菜を買ったり、放牧されている牛がいたり、とても空気がきれいな街でした。

2週目は、ベルギー移動が始まりました。

毎日違う宿に宿泊するという 今までの海外旅行にはない初めての経験をしました。 みんなで荷物を持ち電車に乗り、1・2時間の大移動は当たり前でした。

雨が降ればカッパを着たり 傘を貸し借り したりと。

これはみんなチームワークが良く、助け合いと笑顔とたまに誰かしらが、日本から持ってきたお菓子で糖分補給をして 乗り切った気がします。

とてもキレイなホテルやコンドミニウムタイプのホテルなどに宿泊した中でも 初体験だったのが B&B という船の地下に泊まる宿でした。

二段ベッド部屋がずらりと並び、共同おフロトイレ。船は、水上にプカプカ浮いている為、揺りかごみたいで心地良い。

狭い床に バックを広げるのにもやっとだったり雨で衣類が乾かなかったりと、少し不自由な生活も普段の自由過ぎる生活の有難さを知ることができましたし、そんなことを話しながら 母と二段ベッドで語り笑い合い 眠りに付いたことも思い出に残りました。

最高の天候に恵まれた日、ブルージュの市庁舎に昇りました。ここは世界遺産に指定されている貴重な建物。100段以上ある木目階段はその歴史を物語っていました。息を切らせて屋上に昇るとオランダを一望する絶景。真っ青の空に素敵な建物を見てる自分が一瞬どこにいるのか忘れる位の感動でした。

今回の渡航は、海外に行く際に 為になっただけでなく、今後生活していく上で大切な事をたくさん教わった旅になりました。 ありがとうございます。



Arnhem 遠すぎた橋

郡山 育子



Arnhem の駅で



ホストと

Arnhem、『遠すぎた橋』この映画の舞台となった場所へ Oklahoma のメンバーと共に訪問しました。

美しい風景そこに見える橋の欄干に刻まれている兵士達の姿画が、『老後は何を？』『絵を描いて暮らしたいね。』と大半は答えるという Artistic な Dutch People。

彼らは静かにして穏やか、そこに教養の高さを覗かせ2~3,4ヶ国語を話すのは当たり前のホスト達でした。

共働きをしながら6人(中4人は養子)の子供を育て上げ、更にアフリカへのボランティア活動をこなす Ans、高校の先生 Piet は5つのボランティア事業の President をしている。Zutphen に住む この Big なカップルが倉子と私のホストでした。

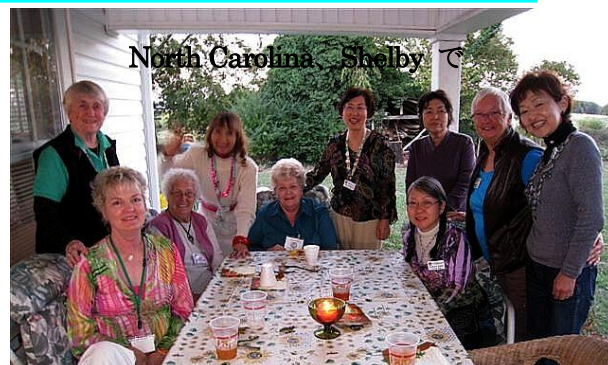
なんと言う愛情の深さなんでしょう。そう、もちろん Dutch スタイルの Mooi で Lekeer(素敵で美味しい)あいさつの日々でした。あ〜っ!あの安らぎと幸福感。恋しい Three Kisses. Dank u wel..

第33回 世界大会に出席して

五十嵐 佑子



世界大会 会場で(Washington DC)



North Carolina, Shelby で

Dubuque 訪問後10月16日~18日のワシントンDCで開かれた2010年世界大会には、写真に載っている5名が参加しました。開会式に続き、分科会ではFF前進について討議し、フレンズデイと称し、観光も組まれていました。

ガラパーティ(祭典)では、民族舞踊も披露され、世界中の民族衣装で華やかでした。閉会式ではWayne Smith 賞(受賞者2名)に日本の愛知和男氏が選ばれました。参加者が500名あり、旧知の人々と友好を温め、新しく多くの方と友人になって、連絡を取り合うことを約しました。

続く5日間のホームステイはノースカロライナのシェルビークラブで、偶然にもカナダのペンティクトンの人々と一緒でした。

ここでは博物館で南部の綿花産業や自然史などを学び、オレゴン、アイオワ、ワシントン、ノースカロライナと、広いアメリカの一部ではありますが、異文化に触れることが出来、多くの人と会い、学ぶことも多く、FFならでの、有意義で感動の連続の3週間だったことに、関わった人達への感謝の気持ちでいっぱいです。

有難うございました。

・渡航報告会 (シーノ7F 講座室1、2010.10.31 午後1:30~)で、下記反省点を討議。

1. ドイツ渡航キャンセルを経験した反省から、相手に連絡付かない場合は EDはFFIに遠慮せずに 早く、強く働きかけるべきとの教訓を得た。
2. カジュアルウェアの定義は場所によって変わるが、男性は渡航の際は ジャケット程度は持参すべき。
3. アレルギーや弱点のある人のマッチング決定時に、EDは相手EDに対応状況につき確認すべき。また、当人も相手ホストとの事前交信の際に確認をした方が良い。

4. パスポートや財布の入ったバッグの紛失は あり得るので身体から離さないような工夫、例えば、ハラマキの使用や バッグを上着の下で肩から吊り下げる等。 又、パスポートをホストの家に置いておく場合は、もし紛失した場合は ホストに迷惑がかからないよう自己責任で対応。
5. ヨーロッパのスリは、日本のチャックは開きやすいので 荷物を抱えていても、チャックを開けて財布を抜き取ることもする。 チャックが見えないようにすることも防止の一つの方法

オーストラリア「Salisbury club 会長夫妻夕食会」



埼玉クラブが2004年に渡航し、2006年に受入れをしたオーストラリアのソールズベリークラブの会長 Glenys とパートナーの Eugene が新潟クラブ訪問の後我が家に。

14名が集まり夕食を共にしながら思い出話はずみしました。お二人はその後アメリカへ向かい世界大会にも出席されました。(沼 純子)

国際フェア



10月23日と24日の二日間、さいたま新都心で行われた「国際フェア」に参加。オランダとアメリカ渡航の写真やFFのちらしなどを展示しました。

クラブ会員、埼大留学生、ガム日本親善大使など多くの方が 訪ねてくれました。(沼 純子)

クラブからのお知らせ

1) クラブイベント 当面の予定

- ① メキシコ渡航参加者募集 : 11月5日から受付を開始。皆さま是非 参加をお願いします。
日程 : 2011年3月11日(金)から3月23日(水)、11泊13日間。
3月12日 ティオティワカン遺跡観光(アステカ文明の代表)
3月13日～20日 フィロボボスクラブでホームステイ(7泊8日)
3月21日 チェチェンイツァ遺跡観光(マヤ文明の代表)
- ② 12月5日 : 午後 1:30～ Year-end Party : 市民会館おおみや 3, 4, 5 室
バザー、ゲーム、ダンス等
- ③ 2011年1月30日 : 総会 午後 浦和コミセン 14集会室

2) 2011年 渡航と受入

- ① メキシコ渡航 3月11日(金)から3月23日(水) : Filobobos club 訪問。前後に観光を計画(上記)。
・ 渡航ED:五十嵐 佑子
- ② イギリス受入 4月16日(土)～23日(土) : Bristol club を受入。ED:西村 純枝、サブED:岸田 正二郎
・ 第1週は愛知クラブが受入。埼玉クラブは4月16日に東京駅で彼らを出迎え。
- ③ ニュージーランド受入 5月26日(木)～6月2日(木) : NZ Kapiti Coast club を受入:受入ED:沼 純子

編集・発行

ザ・フレンドシップ・フォース・オブ・埼玉 事務局

〒331-0815 さいたま市北区大成町4-202

TEL : 048-664-2723 FAX : 048-664-2723

発行日 : 2010年11月15日